



大阪・神戸
ドイツ連邦共和国
総領事館

Deutsches Filmfestival in Osaka

Vorab-Event zum 150. Jubiläum des Deutschen Generalkonsulats Osaka-Kobe

大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館開設150周年イベント

大阪ドイツ映画祭

2023年11月3日(金・祝)

OIT梅田タワー 常翔ホール

詳細・申込: 下記URL またはQRコードより
要申込(先着順)、自由席
<https://japan.diplo.de/20231103>
入場無料



主催: 大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館
協賛: 一般財団法人山岡記念財団
協力: ゲーテ・インスティトゥート



Supported by YANMAR

一般財団法人山岡記念財団



今年のドイツ映画祭は、勇気あるヒロインから複雑なキャラクターまで、スクリーンの中の女性たちが体現する強さと多様性に敬意を表するものです。これらの映画は、特別な試練に立ち向かい、限界を乗り越え、独自の道を進むドイツの女性たちの物語です。彼女たちは、性別、年齢、出自に関係なく、私たちすべてにインスピレーションを与えてくれます。同時にこれらの作品は、ドイツの過去と現在の重要な論争を映し出すものでもあります。強い女性たちとドイツへの複雑な眼差しからインスピレーションを得てください。

ドイツ総領事 メラニー・ザクシンガー

9:30 - 11:15 (開場 9:15)



フェモクラシー 不屈の女たち (Die Unbeugsamen)

2021年 / 監督 トルステン・ケルナー / 100分 / ドイツ語 / 日本語字幕

ジーパンで議会に立った緑の党の女性たち、中絶論争、反核運動——ドイツ連邦議会の女性議員の歩みを、戦後からメルケル政権時代まで追うドキュメンタリー。民主的な決定過程への参加を求め、成功と肩書の上にふんぞり返った男性たちを相手に闘った女性議員のパイオニアたち。セクハラと先入観に臆することなく野心的、そして限らない忍耐力で自分の道を追う女性たちの姿が頼もしくウィットに富んでおり、勇気を与えてくれる。彼女たちの思い出話は、可笑しくも苦く、不条理で、時に恐ろしいほどに現在に通じるものがある。西ドイツの過去を多角的に振り返ることで、現在と未来に貴重な示唆を与えてくれる。

11:30 - 13:30 (開場 11:20)



白バラの祈り ゴッフィー・ショル、最期の日々

(Sophie Scholl - Die letzten Tage)

2005年 / 監督 マルク・ローテムント / 116分 / ドイツ語 / 日本語字幕

1943年、ナチスの敗北が迫る中、ナチスと反戦の非暴力的レジスタンス運動を展開する学生グループ「白バラ」。ゴッフィーは兄たちとともに、ナチ政権の罪と害を訴えるピラを大学にばらまき、警察(グシュタポ)に逮捕された。それだけでもナチスの法律では死刑に値する行為。警察は「凶悪な反逆犯」としてゴッフィーを厳しく追求。全てを覚悟したゴッフィーは容疑を認め、良心によって行動した自らの正当性を訴えることを決意する。それは、ナチスの正当性と「法の支配」を説き、過ちを認めて助命を勧める尋問官モーアと、ゴッフィー達を「裏切り者」として断罪する判事フライスラーとの戦いの始まりだった。

14:10 - 16:10 (開場 14:00)



ハンナ・アーレント (Hannah Arendt)

2012年 / 監督 マルガレーテ・フォン・トロッタ / 114分 / ドイツ語・英語 / 日本語字幕

誰からも敬愛される高名な哲学者から一転、世界中から激しいバッシングを浴びた女性がいる—ハンナ・アーレント、第2次世界大戦中にナチスの強制収容所から脱出し、アメリカへ亡命したドイツ系ユダヤ人。1960年代初頭、何百万ものユダヤ人を収容所へ移送したナチス戦犯アドルフ・アイヒマンが、逃亡先で逮捕された。アーレントは、イスラエルで行われた歴史的裁判に立ち会い、ザ・ニューヨーカー誌にレポートを発表、その衝撃的な内容に世論は揺れる…「考えることで、人間は強くなる」という信念のもと、世間から激しい非難を浴びて思い悩みながらも、アイヒマンの「悪の凡庸さ」を主張し続けた。

16:25 - 17:55 (開場 16:15)



あしたの空模様 (Alle reden übers Wetter)

2022年 / 監督 アニカ・ピンスケ / 89分 / ドイツ語 / 日本語字幕

数日後の天気予報、還暦のケーキ選び、それともヘーゲルの自由の概念？人は自分の出自や刻み込まれたものを完全に払拭することはできない。生まれ育った旧東ドイツの田舎から脱出し、成功への道を進むアラフォーのクララ。ベルリンで研究者としてのキャリアを積みながらも、広々としたシェアハウスで暮らし、父親と暮らすティーンエイジャーの娘とは週末だけ一緒に過ごすという、既存の価値観にとらわれない都会生活を送っている。母の60歳の誕生日に故郷に帰ったクララは、生き方は自分で決めるという理想を改めて見つめ直すことになる。自由な生き方の代償とは？

18:10 - 19:40 (開場 18:00)

トークイベント「視点を変えてみる 映画界の女性たち」



ベルリンのドイツ映画テレビアカデミーで学んだエリツァ・ペトコヴァ監督とツォーラ・ルックス監督、そして岨手由貴子監督の3人の女性映画監督を迎え、日独で映画製作に取り組む女性たちの挑戦や今後の展望などについて語り合います。司会はザクシンガー総領事が務めます。(日英逐次通訳付き)

詳細は下記URLまたは右記QRコードを参照
<https://japan.diplo.de/20231103talk>

